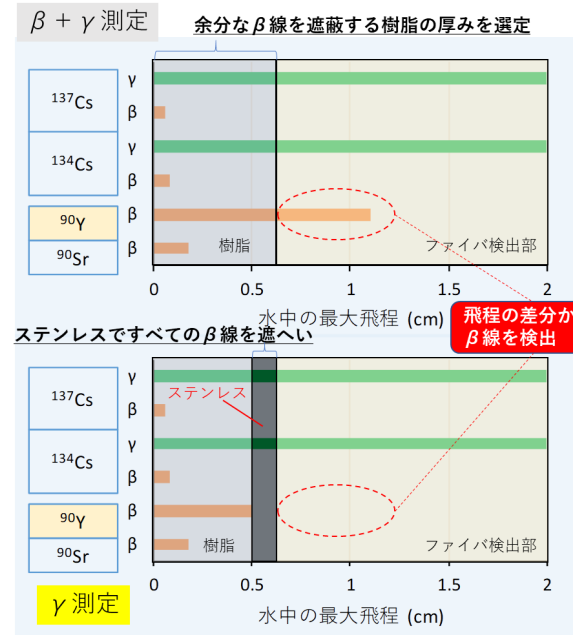
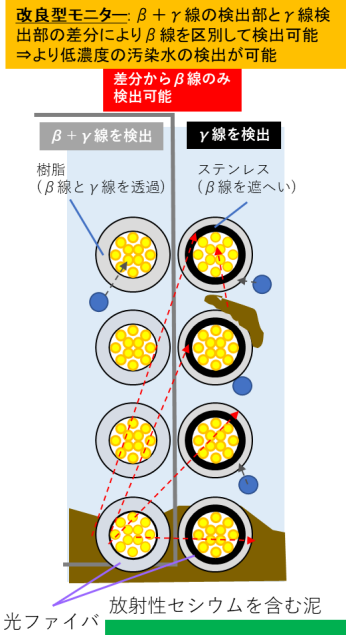
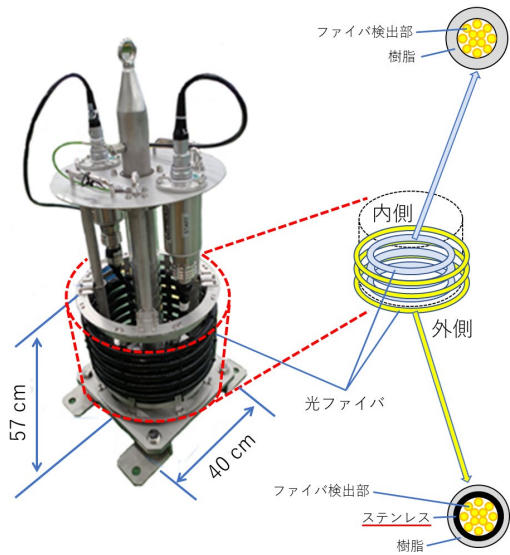


水中のベータ線核種をリアルタイムで測定可能に - 機構の技術で測りにくいベータ線を検出可能に -

課題 東京電力福島第一原子力発電所（1F）では、放射線の性質から測定が難しいベータ線核種を監視する必要があり、排水路の水を採取・測定しているが、労力とコストを要することから、排水路内でリアルタイムでモニタリングできる技術が求められていた。

成果 機構が培ってきたファイバを用いた放射線測定技術を1F構内の排水路でのベータ核種検出に応用し、ガンマ線とベータ線を区別してリアルタイムに測定できるシステムを開発し、実際の現場へ展開した。



JREC（日本エンジニアリング株）と共同で開発したファイバ型モニター。既に東京電力が現場に設置し、1月末より運用開始。

アウトカム

この技術により、排水路でのベータ核種のモニタリングを現場で採取・測定することなく、居室PC等で濃度の監視が可能となり、汚染水漏えい有無の判断の迅速化、作業員の負荷軽減につながる。